2016 年度　第３回ＦＤ研修会実施報告

タイトル：授業外学習支援～Shares の活動と効果～
発表者　：情報マネジメント学部　古賀　暁彦　教授
　　経営学部　田中　彰夫　教授
日　時　：　2016 年 7 月 15 日（金）17：30～18：30
会　場　：　自由が丘キャンパス　1 号館 3 階 1310 教室
参加者数　：74 名　（内大学教員数：74 名）

学習支援サービスの組織的支援

本学における文部科学省「大学教育再生加速プログラム（AP プログラム）」の「学習支援ユニット」では、本学における学習支援サービスのさらなる充実・安定稼動のための支援策の策定を行っている。

授業外学習支援～Shares の活動と効果～

学生がそれぞれの知識やスキルを生かして、仲間を支援し相互に成長していく「ピア・サポート」の支援領域は、正課の学修だけでなく様々にわたっている。主な領域としてはたとえば「大学等における学生支援の取組状況に関する調査（JASSO2014）」によれば、ピア・サポートの内容として就学相談（履修相談等）(29.0%）が最も多く、次いで学生間の仲間づくり（28.3%)、学生生活上の支援（24.7%）と続いている。また、ピア・サポートは国立大学が約 80%、私立大学が約 40%と、国立大学の方が多く導入されているようである。
本学では、学びのピア・サポート活動を「Shares（Sanno hearty experts in active learning resources)」と称して、2015 年 9 月より両学部あわせて 60 名の学生でスタートした。本学ではピア・サポートの活動領域を縦串と横串で考えている。縦串としては、学習サポート、学修サポート、資格取得サポート、就活サポートなどを想定している。横串としては、大きくは自主企画（「１対多」もしくは「１対１」）と個別サポート（「１対１」）に分かれる。現状では、「１対多」の自主企画がほとんどで、「１対１」の自主企画は学修支援における領域において行われた。今後は、「１対多」の自主企画を適宜実施すると共にその受講者を「１対１」の自主企画や個別サポートにつなげていきたいと考えている。また、Shares 内での「１対１」や個別サポートの実施を通じて、ノウハウを蓄積していきたい。
本学の学生に、Shares の認知度調査を実施したところ、名称を知っている学生は約 40%、活動内容を知っているは約 20%であった。引き続き積極的な活動により、知名度の向上を図りたいと考えている。
Shares に参加した学生に１年間の振り返りのアンケートを実施したところ、①個々だけではなく学内全体を考えようという視点にシフトしたなどの「視点の持ち方の変化」、②家庭教師やボランティアなどの活動に応用できたといった「学外への活動への応用」、③組織や運営体制を自分たちで決めなければならず、経営学部生として組織論やマネジメントを実践する機会を得たなど「新たな機会や能力の獲得」などといったことがプラスになったこととして挙げられていた。また、「Shares は、学内にこれまでなかった波を起こすことが出来る活動だと確信している。ユーザーとの距離の近い学生自らが、課題解決およびより豊かな学習を求めて企画を実行する。これは教員にはできないことだ」との意見もあった。

FD 研修会参加者からのフィードバック（ワークシート記載内容にみる Shares 活性化アイデア）

Shares のさらなる活性化についてグループで話し合いワークシートに記載してもらったところ、参加者による意見として次のような項目があげられた。
・運営に関するもの（認知度向上のための PR や、常駐場所の確保・活動日の明確化など）
・新しい活動に関するもの（留学生サポートなどのケア、校内外でのマナー向上支援など）
・講座のテーマに関するもの（英語学習の支援、学生生活のコツなど）